

令和4年度 学力向上プラン（10月修正版・留意点入）

学校名 中央区立豊海小学校

学校の教育目標

人権尊重の精神に基づき、児童一人一人のよさや可能性を十分に伸ばすとともに、心豊かでたくましく生きる子どもの育成を目指し、区民の信頼と期待に応える調和のとれた教育を推進する。

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- ・一人一人の児童の個性や能力を生かし、基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。
- ・確かな学力の向上を目指し、一人一人の児童のもつ資質や能力を把握し、個に応じた指導を工夫し、基礎的・基本的な内容を習得させ、それらを活用して探求できる魅力ある授業を実施する。

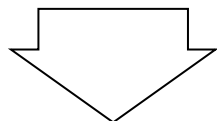
令和4年度「学習力サポートテスト」「全国学力・学習状況調査」の結果や、令和3年度学力向上プランの検証結果、学校評価、児童・生徒の日頃の学習状況等を踏まえ、10月までの授業改善の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<p>「令和3年度学習力サポートテスト」において、どの学年も参加校平均点を上回っている。区平均で見ると、5、6年生では「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の領域で下回っており、語彙力や得た情報を整理することや、話し合い活動に課題が見られる。</p> <p>「令和4年度学習力サポートテスト」において、4年生の「説明文を読み取る」が区の平均を4.7ポイント、6年生の「漢字を書く」が区の平均を5.8ポイント、全国平均を3.1ポイント下回っている。</p> <p>観点別では、4年生で「知識・技能」と「思考・判断・表現」が区の平均をそれぞれ0.5ポイント、1.4ポイント下回り、6年生では「知識・技能」が1.5ポイント下回っている。5年生ではどの観点も区の平均を上回っている</p>	<p>語彙や文型の習熟を図るための演習や書く活動が普段から少ないことが要因として考えられる。また、「話すこと・聞くこと」では、相手意識をもち、目的や意図を明確にした話し方・聞き方の指導が不足している。</p>
算数	<p>「令和3年度学習力サポートテスト」において、どの学年も参加校平均点を上回っている。しかし、区平均から見ると「数と計算」「図形」の領域で下回っている。四則計算の定着を図ることの課題や、式の意味を根拠に基づいて筋道を立てて説明することへの課題、空間認知について課題がある。</p> <p>「令和4年度学習力サポートテスト」において、学校全体では、全国平均よりは、10ポイント近く高い。しかし、区の平均よりは、1.9ポイント低い。問題の内容別では、4年生のたし算ひき算、長さ・重さ、時こくと時間、5年生はがい数の表し方、6年生は面積の内容に課題がある。</p>	<p>立式を、複数の方法で説明することの面白さや、自分の考えを図や表、線分図やグラフなど様々な方法を使うことの良さを感じたり、それを使って説明したりする経験が不足している。また、図形を作図する練習も不足している。</p>

社 会	「令和3年度学習力サポートテスト」において、どの学年も参加校平均点を上回っている。区平均から見ると、5、6年生では各領域の基礎的な問題で正答率が下回っており、特に、国土や地域の様子、生活環境を支える活動、産業について課題がある。「令和4年度学習力サポートテスト」において、3学年とも全国平均を上回っているが、農業や自動車産業など、自分の経験と結びつかない学習の定着が課題である。3学年とも思考・判断・表現力が他の項目と比べて低くなっている。	それぞれの事象について課題意識をもったり、自分事として捉えたりする意識がもちにくい。自分が関心をもった問題と調べて分かったことを結び付けて理解したり考えたりする指導の工夫が必要である。
理 科	「令和3年度学習力サポートテスト」において、「生命・地球」領域で参加校平均点を下回っている。身近な自然への理解、植物や動物の成長、天気の様子や変化についての知識や理解に課題がある。「令和4年度学習力サポートテスト」において、学年が上がるにつれて、全国や区との差が大きくなっていっている。4年生では、「植物の育ち方」「昆虫の育ち方」が区平均と比べて5ポイント以上低い。5年生では、「電気のはたらき」が区平均と比べて9ポイント以上低い。6年生では、「人の誕生」以外のほぼ全単元で全国平均または区平均を下回っている。	自然現象について観察や実験を行う環境や体験する機会が少ない。また、他の教科に比べ、反復学習を行う時間が少ないため、定着しきれていない。
英 語	「令和3、4年度学習力サポートテスト」の6年生においては、すべての領域で参加校平均を上回っている。しかし、「主体的に学習に取り組む態度」が目標値よりは高いものの参加校平均より下回っている。自分から自信をもってコミュニケーションが取れるようにするための反復練習が必要である。	習った表現を活用する状況や場面設定を最終ゴールとして児童にイメージさせることに時間の確保が足りない。また、話すことに慣れるまでの十分な練習時間が不足している。
体育・ 保健体育	「令和3年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣調査」において、すべての学年で「上体起こし」が参加校、区のいずれにおいても平均を下回っている。また、「長座体前屈」「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」も多くの学年で下回っている。柔軟性、投力、持久力の向上が必要である。「令和4年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣調査」において、「上体起こし」「長座体前屈」「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」の平均値が、全国・都・区の平均を下回っている学年が多くあった。柔軟性、投力、持久力の向上が必要である。	コロナ禍や地域的特性から、運動量の確保が難しく、特に学校での経験の量の確保がそのまま影響している可能性が高い。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	「令和5年度学習力サポートテスト」において、実施学年で「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」項目で区の平均点を上回るようにする。
	算数	「令和5年度学習力サポートテスト」において、実施学年で「数と計算」「図形」項目で区の平均点を上回るようにする。
	社会	「令和5年度学習力サポートテスト」において、実施学年で国土や地域の様子、生活環境を支える活動、産業の項目で区の平均点を上回るようにする。
	理科	「令和5年度学習力サポートテスト」において、実施学年で「生命・地球」項目で参加校の平均点を上回るようにする。

	英語	「令和5年度学習力サポートテスト」において、実施学年で「主体的に学習に取り組む態度」の項目で参加校の平均点を上回るようにする。
	体育・保健体育	「令和5年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣調査」において、「上体起こし」「長座体前屈」「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」の項目で、どの学年でもTスコアが前年度を上回るようにする。
② 授業改善		タブレット端末を効果的に活用することで児童の興味・関心・意欲を高めたり、学習計画や授業のめあてを児童が明確に意識し、見通しをもって授業に取り組み、児童自身が自己の課題に気づき、課題解決に向かう授業を実践したりすることで、学校評価の「授業の内容が分かる」の項目で、児童が75%以上を目指す。
③ 家庭との連携		タブレット端末を活用した個人の学習進度に合わせたドリル学習、児童への問題の配信、学習履歴の情報共有など、家庭と連携して個に応じた指導を充実させ基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させる。
④ 体力向上		マイスクールスポーツのなわとびについて、個人目標、学級目標設定をして練習に取り組み、目標を達成した学級が全体の50%以上となることを目標とする。本校の課題である投力と柔軟性の向上を図る



【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	ドリル学習を 朝学習の週に1回 に計画的に設定する。主に言語の既習事項の習熟を図る。読書習慣がつくように、継続的に取り入れ、読解力・理解力を高めていく。 特に物語文や説明文を読むよう、週に1回の図書の時間に選書指導も行っていく。読み深めながら、段落や文章の内容を捉えたり、中心となる語や文を見つけて要約させる活動になれさせていく。 話し合い活動を積極的に取り入れ、相手意識や目的意識を明確にするめあてを設定し、児童が主体的に学習に取り組むようにする。 正しい漢字の使い方や、文章を書く中ですんで漢字を活用できているかを確認する。
算数	ドリル学習を計画的に設定し、四則計算力を高める。自分の考えをまとめたり説明したりする活動を毎時間設定する。図形の学習では、具体物やデジタル教材を使うことで、空間認知力を高める。 習熟度別で、指導する中で理解が不十分な場合は復習を含めながら授業を進めていくようにする。また、豊海塾（放課後補習教室）の活用で内容の補足や定着を図っていく。
社会	それぞれの事象について課題意識をもったり自分事として捉えたりする授業を展開し、問題と調べて分かったことを結び付けて理解したり考えたりできるようにする。 動画の活用をより多く取り入れ、視覚的に理解につなげる活動を増やしていく。
理科	自然現象について、観察や実験を行う環境を整え、体験をもとに考察する授業展開にする。また、授業初めに、必要な知識の確認を行ったり、ドリル学習を計画的に設定したりする。
英語	聞く活動を中心にした授業展開を行い、耳慣れた英語表現を使って話すことに慣れるための練習時間を十分確保する。

体育・保健体育	柔軟性、投力、持久力の向上につながる運動を予備運動に毎時間取り入れる。また、休み時間でも取り組めるような遊びを紹介し、日常化を図る。
②授業改善	
取組Ⅰ	タブレット教材、デジタル教科書や大型提示装置、プレゼンテーション発表ソフト等を活用することで学習意欲を向上させ、学習への理解を深めたり自分の考えを伝えたりすることで児童の学習効果を高める授業改善を図る。 ムーブノートを取り入れ、児童の作品を共有しながら意見交換を行うなど、児童が自主的に話し合うことがを促す補助教材の活用を活発に行っていく。
取組Ⅱ	管理職による授業観察を行い、個々の教員の課題を明らかにすることで、指導力の向上を目指し、授業改善につなげる。また、学年内での交換授業や教科担任制、OJTグループによる授業研究の取り組みを継続する。

③家庭との連携	
取組Ⅰ	個人面談、保護者会等を活用して、児童の学習状況やそれぞれの課題を伝えたりすることで、保護者と共通理解を図りながら、連携を強化する。
取組Ⅱ	タブレット端末を中心に学校からの情報が全て確認できるようにし、子供の学びの姿や必要な情報が手軽に得られるようにし、家庭と共有できるように取り組む。

④体力向上	
取組Ⅰ	年間を通して縄跳びに親しみながら、リズム感・調整力・持久力を育てられるよう、個人の目標やクラスごとの目標を決めて取り組ませる。活動の記録を残せるよう、ワークシートや各教室の掲示を活用し、目標の達成具合が分かるようにする。
取組Ⅱ	なわとびカード、体力アップカードなど、自分の状態を客観的に捉えられるようにする。投力、持久力に重点を置き、休み時間や体育の時間を活用しながら、月に1回程度自分自身の目標とする数値に近づけるよう、カードに記録を残していく。
取組Ⅲ	柔軟性の向上を図れるよう、体育の予備運動の中で取り組める時間を確保し、継続的な取り組みを目指す。